

主 題：運命と摂理

聖書箇所：ヨハネの福音書9章1－15節

内藤先生の紹介（泉佐野聖書教会・曾我真人兄より）

内藤先生は、千葉県千葉市美浜区にある美浜バイブルバプテスト教会の牧師先生です。「野の花」という障害者伝道誌がありますが、その編集も先生がされています。この浜寺にも毎月何部か送ってくださっていますので、皆さんもご覧になったことがおありではないかと思います。そしてまた、奥様の靖子夫人は、浜寺でもご存じの方々がおられることと思いますが、もと浜寺の教会員であり、泉佐野が独立するときに泉佐野に転会されて泉佐野聖書教会の会員となりました。そして、内藤先生とご結婚されて千葉の方に移られたという経緯があります。それでは、今から内藤先生からみことばを取り次いでいただきます。

内藤牧師より

定かではございませんが、25～26年前、浜寺聖書教会の多分、祈祷会にお邪魔したことがございます。家内の教会でまたお会いすることが出来て感謝しています。実は今回、家内の里である浜寺に帰るということで東京を経由して来ました。結婚してもう7年にもなりますが、関西人は強いなと思います。まだ、関西のことをよく言っていますから、私は関西にねたみを感じています。なぜなら、何かと言うと関西が良いと言うからです。関東も良いのですよ。関西も関東も神さまのご支配の中にあることで感謝しています。私は湾岸都市の一角にある美浜バイブルバプテスト教会に仕えさせて頂いて、丁度12年になります。こちらの教会に比べて伝統は短いです。私の教会はまだ開拓時代です。年に1回、説教しないという規則で休暇を頂いて来ました。今回も皆さんといっしょにメッセージを聞いたかったのですが、近藤先生、曾我先生を通してメッセージをしてくださいと言われました。

私はやはり、障害者伝道の使命がございましたので、今日は特に、ヨハネの福音書9章のみことばから自分の生き方をお話しながら、神のおことばをいっしょに考えて行きたいと思えます。

ヨハネ9章1－5節までをお読みします。

9:1 またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。

9:2 弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。

9:3 「イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。」

9:4 わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。

9:5 わたしが世にいる間、わたしは世の光です。」

お祈りいたします。「天にいらっしゃるお父さま、この新しい一日を感謝いたします。私たちはあなたのあわれみによって集められ、もう一度、神さまのおことばを聞く特権をお与えくださり感謝します。願わくは、どうかこの聖書のおことばを通して、一人ひとりに神さまが豊かに語りかけてくださることをお願いします。尊い御名によって、アーメン。」

今日は、少し気張ったテーマですが、「運命と摂理」ということで考えてみたいと思えます。特に、この3節、「**イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。」**」、このみことばによって私の人生が変わりました。私は生まれた時、出産時の障害のため未熟児で、昭和11年、その障害で、母の言い方によれば、頭の後ろの米粒大の所が圧迫されたために、全身に麻痺が来たと聞いております。脳性小児麻痺というありがたくない病名を頂いたのですが、一番悩んだことは、この病気になったのはなぜなのか？だれの罪なのか？ということです。四人の兄弟がいますが、私だけがこの重い障害を負って生きて行かなければいけないと、すごく反発を感じました。今から55年前、私が初めて聖書を読んだとき、このことばを読んでハッといたしました。私が長い間悩んでいた問題が、ここでイエスによって私が考えていた以上のことをおっしゃっているということで非常に感動いたしました。「**この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。」**

まず、この弟子たちの質問から見て行きたいと思えます。イエスは道の途中で生まれつきの目の見えない方を見られた。弟子たちは彼についてイエスに質問したのですね。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」と。大概そうですね。障害者を見るとなぜ、あのような障害を持った人がいるのか？という疑問があります。昔は「めっかち」という、今は差別用語で言うてはならないことばですが、ご飯粒を落とすと目がつぶれると良く母に言われました。

盲目に生まれついた、だれが罪を犯したのか、私もこれで悩みました。だれかの罪で私がこの様な重い障害を持って行かなければならない、不公平ではないかと思えますね。

でも、質問した人を見ると、一般の人がイエスに質問をしたのではありません。弟子たちです。今日で言えばクリスチャンです。いつもイエスと行動をともにして、イエスから教えを受けていた弟子たちがこのような質問をしたのです。私たちも気をつけなければいけないことは、クリスチャン、教会と謂えども、偏見と差別意識から抜け出すことができないことがあるということです。この弟子たちの疑問は私たちの心の片隅にいつもあるのです。この問題を典型的に教えているのがヨブ記です。今日はヨブ記を開きませんが、ヨブは大金持ちで12人の子宝に恵まれていましたが、自分の体全体ができもので覆われ、突然みじめな障害者になった訳です。彼はこの様に言いました。ヨブ記1：21「**私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。**」、神がお与えくださったから神が取り上げられるのは当たり前ではないかと思えます。でも、私たちは何か取られると「取られた」という意識で神を恨むことがあります。私が13年前、前の妻を交通事故で亡くしたとき、牧師であるのに、葬儀の時に話せと言われても本当に何を話してよいのか分からなかった、そのときに、このことばが導かれて語りましたが、喜んで語ることはできませんでした。しかし、神がお与えくださったものを、神がご自分の元に召されたのは、やはり悲しいけれども厳しいけれども、神の恵みのうちにあるのではないかと思いました。

ところが、このように立派なヨブも、友だちが来るとヨブのことばが変わって来るのですね。ヨブが何か悪いことをしたからこのような不幸に会ったのではないかと。世間一般の考え方ですね、何か不幸があると、本人が罪を犯したから、あるいは、親が罪を犯したから、あるいは、先祖が…と。私がよく言われたことばは「内藤家にはこういう障害者はいなかった。先祖のたたりというか、母が罪を犯したためにこのようなかたわが生まれたのだ。」と、そのようにおばあちゃんからよく言われました。母がすごく可哀想でした。でも、ヨブは敢然として「いや、私は神の前にそんなことはしていない。」と断固として抗議をしました。そこがヨブ記の変わっている所です。人から言われるとめそめそしてしまうのが私たちです。でも、ヨブは断固として、神に抗議をして、しかも、神に信頼して行きました。ヨブ記を読むということはすごいことです。これをひと言で言うなら、「因果応報からの解放」ということです。私たちは何か悪いことがあると、何かの罪の結果だということで、その本人、また、家族を苦しめるのですが、ヨブ記は最後には逆転して、ヨブは神に誉められ、ヨブの友人が神のさばきを受けています。それがヨブ記の偉大さです。

私たちはヨブ記は読んでもなかなか終わりまで読む気がしません。最初と最後だけ読むことがあります。42章もあって長い上に、何を言っているのかさっぱり分からないような書物です。でも、忍耐強く読んでみると、ヨブの悲しみ、ヨブの信仰というものが分かって来ます。ある説教者がこのようなことを言っています。「もし、日本の教会がもっとヨブ記を読んでいたら、もう少し、苦しみに会う人たちに対する態度が変わっただろう。」と。本当に読んだらハッとします。ヨブ記を読むべきです。人間の苦悩の極限を生きている、でも、イエスが十字架においてこの苦難を解決してくださった。両方を読まなければいけないと思えます。ヨブ記を読んで、イエスの受難の出来事を読んで行くのです。

イエスはこれに対してどのようなお答えをなさったのでしょうか？3-5節「**イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのではなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。：4 わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。：5 わたしが世にいる間、わたしは世の光です。」**」、私たちには分からない答えです。私はもう先祖のたたりだと言い含められ続けて来て、私は生きていて良いのかと言う疑問がありました。でも、イエスが「**神のわざがこの人に現われるため**」と言われたときに、自分でも生きていていいのだと教えられました。でも、やっぱり疑問が残ります。「**神のわざがこの人に現われるため**」ということは、わざわざ、神がその人に障害を負わせたのか、という問題が起こって来ます。障害を負うと、障害を負うだけでなく、もろもろの偏見や差別をくぐり抜けながら生きて行かなければいけません。障害者だけではありません。多くの苦難を経験している方々は、やはり、理解というものがなかなか行き渡らない、偏見と差別があります。

神は善意なのに、なぜ、このようなことが起こるのか？大きな問題です。「神さまがいらっしゃればこういう不幸なことは起こらない。」と、それは皆さんも考えると思えます。仕事の点で上手く行かなかったり、家族のことやいろいろな問題で上手く行かなかったとき、神を信じているのになぜこのようなことが起こるのか？と。ヨブもそうでした。フームという人がこの問題を的確に定義しました。「神は悪を克服できないのか？そうだとすれば、神は無力ではないか。それとも神は悪を取り除くことができるけれども、あえて除こうとしないのか。それは神は悪意があるのではないか。」という問題です。この両者でなければ、なぜ、悪があり、悪に苦しんでいる者があるかということです。これは古典的な言い方です。私たちだれもが悩む問題です。神は無力ではない、神は善意で悪意ではない。それなのに、なぜ問

題が起こるのか？私たちは現代ということを考えます。もちろん、罪を犯したアダムとエバの結果、このような問題が起こるのです。でも、すべてではなくて、ある人にその問題が振りかかってくる場合は、やはり問題が起こって来るのです。

学者もいろいろと研究したようです。今、句読点というものがあります。この聖書は、何節、何節と書いてありますが、昔の聖書は句読点がなかった。ですから、ある有益な学者は、日本語は「**神のわざがこの人に現われるためです。**」と、ピリオドで区切ってありますが、神のわざがこの人に現われるために私たちは働かなければいけないと読むこともできます。これは大きな違いですね。神のわざがこの人に現われるというと、盲人や障害者とか高齢者、体の不自由な人、その人たちだけの問題になって来ます。でも、神のわざがこの人に現われるために私たちはしなければならぬことがあるとするなら、それは私たちが福音を伝えて行くことです。これは社会的なバリアフリーの問題です。この浜寺の教会に来て一番嬉しかったのはスロープがあったことです。階段があると大変です。スロープがあるとズーと車椅子で入って来ることができます。今、駅にもほとんどエレベーターが付いていますが、昔、30-40年前、私は全国を巡回伝道していましたが、JR、昔は国鉄と言いましたが、よく職員から怒られました。「なぜ、出て来るのか、障害者など出て来るべきでない。」と、階段を駅員が四人で担ぎ上げます。私は前に来たとき、松葉杖で駅員におぶってもらったことがあります。秋葉兄弟、今85歳でしょうか、「野の花」を一生懸命作ってくださったのですが、秋葉兄弟もその頃は50才で私をおぶってくださったことがあります。すごい高い階段をおぶって上がって降りて大変でした。でも、今は駅でもエレベーター、エスカレーター、階段があります。階段を上りたい人は階段、エスカレーターで行きたい人はエスカレーター、エレベーターで行きたい人はエレベーターです。

随分前に、デンマークの講演会に行ったとき、ノルウェーですが、そのような設備ができていて選択は自由でした。障害者だけをエレベーターに乗せるのでは偏見がある。また、エレベーターは健常者だけ乗っていたら、今は、若い人高校生が乗るのですが、それで車椅子は待っていなければいけません。駅員さんが「ちょっと待ってください。車いすが優先です。」と言ってくださる。ですから、神のわざがこの人に現われるために、私たちが何かをしなければいけないのです。社会的にはバリアフリーですが、教会的にはどうでしょうか？障害者伝道、高齢者伝道。私も高齢者になりました。72才です。耳が遠く、入れ歯を入れて、車椅子から離れることができません。高齢者の生き甲斐を感じている次第です。

差別があります。高齢者、教会の戦力にならない者たちはガラクタ伝道だと言っている人がいます。エリクソンという人がそのように言っています。日本だけではない、アメリカでもやはり、教会の戦力にならない者はガラクタ伝道になっていると、そこには人間の罪があるのです。若い時に教会を一生懸命に支えてきた人が教会から去って行く、去って行くのではなくて病気で教会に通うことができない、寂しく、自宅で礼拝にも出られないという問題が全国に起こっています。私たちは教会のこれからを考えて行くためには、ガラクタ伝道ではない、本当に一人ひとりを訪問して伝道して行かなければならないと思います。

「**神のわざがこの人に現われるためです。**」。人間の功績や能力を称える教会ではなくて、神のみわざを現わす教会へと転換する、非常に良い時期ではないかと思えます。動ける人だけが教会を支えて行くのではなく、動けない人も、どんなに小さな者も教会のために何かを担って行く、そして、教会が援助して行くということではないかと思えます。

この9章は長い所ですから、全部を話すことはできませんが、最後にこのイエスとパリサイ人の対決になって行くのです。この盲人がイエスを信じて目が開かれる、ところが、パリサイ人は自分が目が見えないと言うことを全然認めないのです。傲慢です。現代で言う、高齢者と健常者、あるいは健常者と障害者の構図が、ここでイエスによって逆転されて行きます。最後のところですが、読んでみましょう。

39節「**そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、**」、これはイエスのわざです。「**見える者が盲目となるためです。**」、関係が逆転して行きます。障害者と健常者、あるいは、高齢者と健常者の関係が逆転して行く。ヨブ記でもヨブが誉められて、ヨブを責めた友人が神によってさばかれて行きます。聖書を読むということは、そういうことではないでしょうか？私たちの常識を覆して行くのが神のことばです。神のことばによって私たちは悔い改めて行かなければいけない、自分の過ちを認めて行かなければいけないのです。

40節から見て行きます。「**パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」**」:41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える。』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。」。新改訳聖書はここで切ってしまうから意味が余り通じないのですが、口語訳聖書の訳は分かりやすいです。41節「**イエスは彼らに言われた、「もしあなたがたが盲人であったなら、罪はなかったであろう。しかし、今あなたがたが『見える』と言い張るところに、あなたがたの罪がある。』、「言**

い張る」、強情だということです。自分は目が見える、足が利く、手が利く、頭が利く、そういう傲慢なところにあなたがたの罪が残る、そして、このためにイエスが来られたのです。

「わたしはさばく」と言われたイエスは、救いのためにおいでになった。しかし、人間の罪をさばくために、人間の過ちを鋭く指摘しとり除くために、イエスがこの世においでになったというところまで、私たちは聖書を読んで行かなければいけないと思います。「かがわひろこ」という詩人がいます。四国の松山で寝たきりの方です。現代詩人の文庫に入っていますから、皆さんもお読みになったことがあると思います。この方が「選ぶ」という詩を書かれた。全部を読むことはできませんが、子どもがあれこれ人形を選ぶようにお母さんから勧められた。子どもとして良い人形を選びたい、でも、彼女は一番最後にこのような詩を書いています。半世紀前、八十幾つかの方ですが、「もしこんなふうを選ぶことができたなら、両親は重度障害児の私を抱き上げたりはしなかったろうに。それにもかかわらず私を抱き上げ、育ててくださった。」と、親への感謝と、キリスト者として自分を選んでくださった神への感謝が、このことばの中に浮き彫りにされていると思います。私だったら壊れた人形なんか選ばない、すばらしい素敵な人形を選ぶでしょうという思いを、人間のエゴとか社会のエゴを告発していると思います。

イエスは単に「**神のわざがこの人に現われるためです。**」と言って通り過ぎたのではありません。地面にしゃがんでご自分のつばで泥を作ってそれをねって、盲人の目に塗って、そして、「**シロアムの池で洗いなさい。**」(9:7)と、ともに生きるイエスです。私たちは上から「神のわざが現われるためです。」と通り過ぎて行くなら、それは却って逆効果です。ともに生きて、パリサイ人が目を光らせている中で、イエスはこの泥を作って塗ってあげた、触れてあげた、そのようなことを私たちはイエスから教えられます。皆さんはクリスチャンとして生きておられます。各々、この様な傷があつたり悩みがあつたりします。でも、イエスは皆さんのかたわらに立って、立つだけでなくしゃがんで、私たちの目に泥を塗って「見えるようになりなさい。」と言ってくださった。これはすばらしいことです。

私たちクリスチャンは運命というものを信じません。現代人は運命を信じることを馬鹿にします。でも、科学的だと言いながら、神道でお参りをしたり、高速道路の災難よけのお札を車にいっぱい積んだり、あるいは、若者は星占いに夢中です。私はそのようなテレビは一切見ませんが、時々、テレビに映っているのは星占いです。本当に若者の中ではやっています。不安なのですね、多くの人がどのように生きて行ったらよいのかと悩んでいます。私たちはいよいよ終末に近づいて福音を信じて行くチャンスがあります。運命の力に私たちは縛り付けられています。私たちはクリスチャンは「摂理」ということばを使います。「摂理」ということばは少し難しいです。よく一般のテレビ番組でも「摂理」ということばが出て来ます。「摂理」ということばには二つの意味があるそうです。良い意志、悪意ではありません。先程、神に悪意がある？と言いましたが、神は絶対に私たちに善意を持って、イエス・キリストを十字架に付けて復活させて、私たちの人生を変えてくださった方です。もし、神に悪意があるなら、私は救われなかった、私は絶望の余り死んで行くよりしようがなかったのです。家内もそうだったと思います。家内も一人で生活していたとき、この浜寺の皆さんの愛の手があつて、今、こうして神のご用のために立っていることができるのです。

もう一つは、前もって見るということです。私たちは一寸先は闇ということがあります。教会を出てどんな事が起こるか分からない。でも、私たちの人生の最初から最後まで見通して下さって、私たちを守ってくださるのが神です。ですから、運命という不可解な、そして、悪魔的な力に縛られるのではなくて、どんなに悲しくても苦しくても、どんなに不自由であっても、神の善意、神の力を信じて行くのがクリスチャンです。「神のわざが現われるため」とイエスはおっしゃった。「神のわざとは何ですか」とユダヤ人は聞きました。私たちは神のわざというのは、モーセが紅海を二つに分けたという奇蹟を考えますが、そうではない。ヨハネ6:28-29に「**すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」:29 イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」**」とあります。福音を信じることによって私たちの人生が変わって行く。そこから出発点があるということです。私たちが人間の力を誇示して誇ったり、威張ったりするようでは私たちの人生はちっぽけな人生です。神のわざを信じ、神が遣わしてくださった方を信じることによって、私たちの人生が悪魔のわざではなくて、神のわざを現わす人生へと変えられて行くのです。

日本のクリスチャン人口は1%にも満たないと言います。この終わりの時代に、私たちは自分が救われただけではなくて、本当に、もっと熱心に自分の周りの人たちに目を向けて、このイエスのすばらしい福音を伝えて行きたいと思います。家内とのつながりで、この浜寺の教会に来て、本当に自分の教会に戻って来たような感じです。本当に長い間みことばを聞いてくださって感謝します。

美浜教会はまだまだ小さな教会ですが、どうか、私たち老人が力尽きないように祈って頂ければ感謝です。ひと言祈ります。「神さま、運命と摂理、私たちは不可解な運命の力に翻弄されている人生ではなく、あなたさまの善意と力によって私たちの人生を尊く選んでくださり、御国へと行く確信を与えてく

ださったことを覚えて感謝いたします。この日本の社会は疾風怒濤です。特に、今日は国政が分かれる大きな日ですから、神さま、どうぞこの国をあわれんでください。教会が、私たちクリスチャン一人ひとりがもっと熱心になって、友人や家族に福音を伝えて行くことができるように導いてください。障害者や高齢者、また、苦しんでいる方々に目を向けて行くことができるように導いてください。今日のこの時を感謝して、尊い御名を通してお祈りいたします。アーメン。」